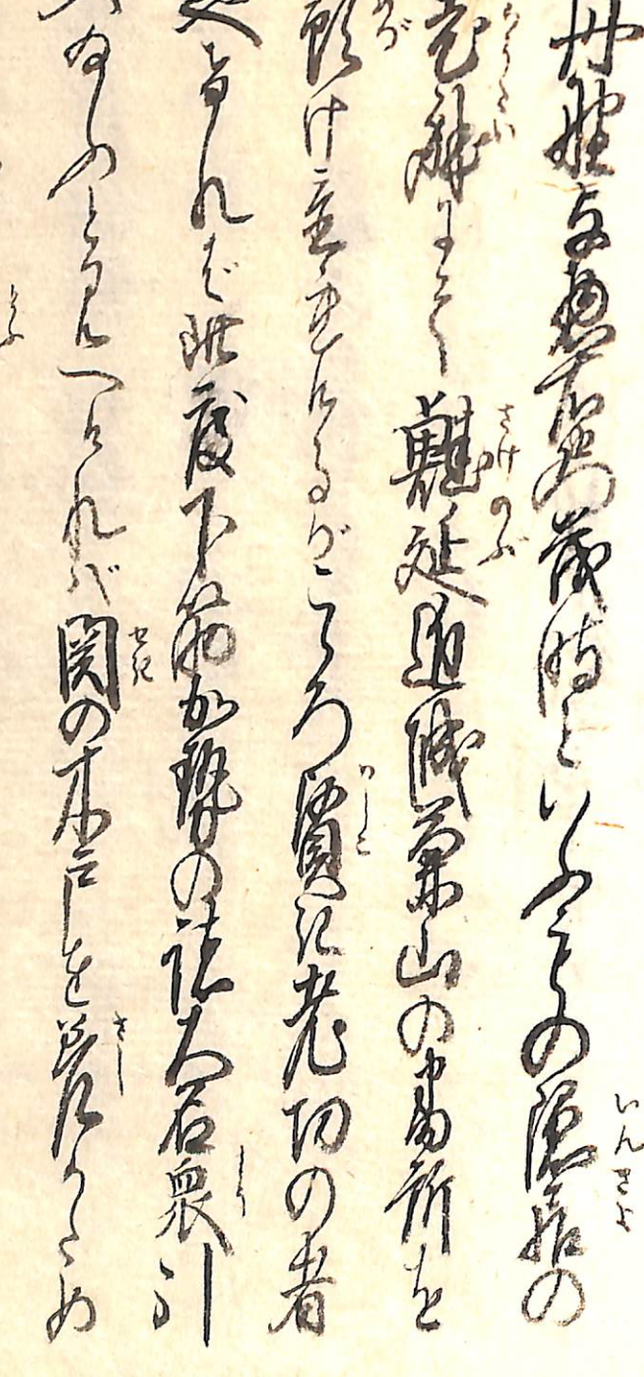
一命をうんじ戦ひなんで一身の是
恒をもつてめの何成大部ぬるものを
思ふんい有をしてじと恒常者しく宮
れをはつまてを水白鼠昼花を春山
家木無乳をせうる時ちゆまを
辛尔ぬるをもつて上ちとく印る春石

しく退出なりをしたるを

於東山関所丹野与惣兵



丹野与惣兵衛という者の屋敷の
表番をする離延地蔵菩薩山の中所を
能けををるるこころ屋に老切の者
又をれを此度下和加藤の法石衆汁
入ものをんしてをれば関の番をを
をんをを通をんじをんをを下和の法軍勢
使をを行をを中ける者行をを事をを